

理事が語る「昔昔にこんなことがありました」(その2) 理事 松平和也

※前号では、(その1)として以下を掲載しました。

1. 計算機の一号機と美人のプログラマ伯爵夫人
2. HERMAN HOLLERITH(1857-1929)とパンチカードと電子計算機の話
3. Leslie Matthies(レス・マサヤ)と COBOL の Procedure Division の関係
4. Robet W. Beamer (ASCII の父, UNIVAC のリーダー)
5. PRIDE 方法論, 世に出る

今号はその続きをお届けします。

6. COBOL の母, GRACE MURRAY HOPPER (12月9日, 1906年生まれ。 1992年1月1日死亡)

YALE 大学で博士を取得。女性ですが海軍提督なのです。COBOL 言語の開発者：MOTHER OF COBOL と言われてます。COBOL：COmmon Business Oriented Language, 開発コード名コンパイラ・ゼロ。グレースさんがこの命令文の構想をしていた時に、上記の LES さんの Playscript の起用に着想したというのです。

結果 PROCEDURE DIVISION が設定された。MBA 社のブライス氏はユニバック時代このコンパイラ・ゼロの PROCEDURE DIVISION のテストに取り組んだというのです。かくて、第三代言語 COBOL が開発された。この開発成功で従来難しかった第一代言語の機械語からわれわれは開放された。ASSEMBLY LANGUAGE, すなわち第二代言語にもやがて別れをつけることができた。COBOL が出てきて随分とプログラムが易しくなったと感じたのは私ばかりではなかったですよー。

ホッパー女史がバグという言葉を生み出したのはご存知ですか？昔々はプログラムのためにワイヤーを使っていたのです。そのワイヤーの間に挟まっていた蛾を取り出してワイヤープログラム盤の誤動作の原因を取り除いたとき“これからはプログラミングとデバッグと言うことにしよう”と女史が宣言した。

彼女は MARK1, MARK2 コンピュータをも活用し、エッカート・モークリーコンピュータ社のメンバーになって彼らと働き電子計算機の活用推進に大きく貢献した女性なのである。米国 ACM の大会で“日本の女性も計算機を使う時代が必ず来ますよ”と男ばかりの我々に優しく予言してくれた女史の言葉は忘れられない。

7. UNIVAC 対 IBM：勝負はあっという間に

UNiversal Automatic Computer の頭文字 UNIVAC1 の黄金時代は短命であった。1964 年に出した IBM/360 で市場をひた走る強力な IBM に対抗して米国ではバンチが結成される。IBM-BUNCH (Burroughs, Univac, NCR, CDC, HONEYWELL)。日本は富士通/日立/日電/東芝/三菱電機/沖電気の 6 社。松下電器が電子計算機産業に進出せずと松下幸之助氏が決断したのは有名な話。日本では通産省電子政策課と 6 社が束になって外国勢(主に IBM)と戦ったが苦戦苦戦の連続。ずいぶんと税金を無駄使いしたなー。今でもまだ無駄に使ってますぞー。

8. DBMS/DDD/CASE 時代

Peter Kreis 率いる西独ソフト会社 Software AG 社がドイツから日本と米国に進出。松平が販売権利を得て事業可能性を模索。結局あきらめビーコン社に販売権を譲渡。なお松平は米国でこそ ADABAS を売ろうと知人のマックガイアー氏を米国社長に推薦した。半年苦勞して彼は NY 市に売り込みを成功。彼の家で乾杯したのを記憶している。米国では IMAGE, MODEL204, System2000, など各種の競合品が現れた。データディクショナリー/ディレクत्रीも徒花のように現れ消えた。3D, DATA MANAGER 等である。CASE ツールはもっとひどかった。INDEX/TI/NASTEC/KNOWLEDGEWARE などが転瞬の間に出現し消えた。

1980 年代はツール指向の時代であった。DBMS の世界はコードの RELATIONAL の掛け声でじんわりと主役交代が進んだ。結果 ORACLE/INGRES/DB2 に取って変えられた。1990 年代は構造化プログラミングが退潮し OOP-オブジェクト指向プログラミングになった。言語は JAVA であり、C 言語になりここまでくると第三世代まで必死に喰らいついていた生ける化石人老齡シーラカンスはギブアップ。

2000 年は IBM の変身で始まった。AJILE (俊敏) も BPR (リストラ) も全て IBM の変身変幻の道具。IBM はパソコン事業も売った。SOA (サービス指向アーキテクチャ) が合言葉になった。日本企業はオロオロするばかり。富士通も日立も日電も迷走した。業績も一時迷走した。電子計算機を早めに諦めた東芝と三菱電機の経営はとっても好調だ。あの GE でさえさっさと撤退してしまった。そういえば、ウエルチ前 CEO は「自分は化学屋で電子計算機は苦手だ」と言っていたな。

9. BOB BEAMER・MILT BRYCE が数年前に死去。

ボブ・ビーマーが死去した。程なくブライス氏も死んだ。MBA 社のチームが知らしてきた時考えた。ビーマーが ASCII コードを工夫しなかったらビル・ゲーツも巨万の富を掴めなかった。インターネットも無い。

歴史に“もし?”は無いが、先人の苦勞は偲ぶべきだと会話したものである。ASCII : American Standard Code for Information Interchange は偉大な標準化であった。

ミルト・ブライス氏が PRIDE 方法論を世に出さなかったらプライド社も無い。私も今頃工場に IE 技師として現場改善をやっていることだろう。自画自賛になるがシステム開発方法論の標準化も大事なことと信じている。情報資源管理関連の標準化活動で穂鷹先生と堀内一先生 (今でも ISO でご苦勞されてる) 達とで ANSI のレフコビッツ連中とやりあったのも良い経験であった。

-- 経験し学んだ歴史を語ることは楽しい。良い時期に良い人と知り合えたものである。学会の友人は皆“善知識”であり今後もこのような歴史を語り合いたいものである。